

令和 6 年度

我孫子市部活動地域移行 実証事業

事業報告書

我孫子市教育委員会

令和 6 年度実証事業

地域クラブ活動について

令和 6 年度実証事業概要

概要

- ・ **期 間**：令和 6 年 9 月 1 日～令和 7 年 2 月 2 8 日
(地域クラブ活動は期間終了後も継続)
- ・ **対 象**：白山中学校 陸上競技部、男女卓球部
- ・ **実証内容**：①指導者、②連絡体制、③緊急体制、④移動方法、
⑤施設管理、⑥管理業務

検証結果はP8参照

令和6年度実証事業の経過

時期	内容	備考
6月11日	部活動指導員との意見交換	概要説明
6月13日	白山中学校と意見交換	概要説明（校長・顧問・指導者）
7月17日	白山中学校陸上部・卓球部保護者説明会	
7月18日	保護者向けリーフレット配布	全学校（中1・2）
8月5日	白山中学校卓球部打ち合わせ	今後の進め方
8月17日	指導者間打ち合わせ	役割分担、アプリ使用方法など
9月6日	指導者マニュアル（確定版）送付	
9月7日	活動開始（救急セット、OS1納品）	陸上、卓球女子
9月8日	活動開始	卓球男子
9月21日	我孫子市中学校新人卓球大会（男女）	地域クラブ指導者随伴
9月21日	葛南新人陸上大会	
10月5日	県新人陸上大会	
10月5日	第1回部活未来アクション	陸上、ラグビー、コンディショニング、マルチスポーツの意義
10月13日	市民陸上大会	
10月20日	第2回部活未来アクション	バレーボール、メンタル
10月27日	葛南新人卓球大会（男女）	地域クラブ指導者随伴
11月2日	葛南新人卓球大会（男女）	
11月9日	卓球練習試合（男女）	守谷市けやき台中学校
11月24日	第3回部活未来アクション	ラグビー、メンタル
12月1日	千葉県新人卓球大会（女子）	浦安市
12月7日	千葉県新人卓球大会（男女）	浦安市
12月8日	第4回部活未来アクション	陸上、コンディショニング
12月14日	葛南大会（男女）	
12月15日	第5回部活未来アクション	ソフトテニス、栄養

時期	内容	備考
1月11日	千葉県中学生卓球強化大会（男子）	千葉市
1月12日	千葉県中学生卓球強化大会（女子）	千葉市
1月17日	新入生保護者説明会	白山、我孫子、湖北台中
1月25日	卓球しらかば杯（男子）	
1月12日	卓球練習試合（男女）	柏市逆井中
1月27日	新入生保護者説明会	布佐中
1月29日	新入生保護者説明会	久寺家中
1月30日	新入生保護者説明会	湖北中
2月1日	千葉県中学生卓球強化大会（男子）	千葉市
2月8日	東葛1年生招待卓球大会（男女）	流山市おおたかの森中学校
2月11日	検討委員会委員クラブ活動見学	
2月11日	陸上クラブ・卓球クラブ 指導者意見交換	

各クラブの活動

※大会参加・・・参加した日数

①白山中地域陸上クラブ

- ・ **指導体制**：2名（内訳 元部活動指導員1名、スポーツ協会推薦1名）
- ・ **活動日**：毎週土曜日午前中
- ・ **大会参加**：4回

②白山中地域卓球クラブ

- ・ **指導体制**：5名（内訳 元部活動指導員2名、スポーツ協会推薦2名、
教員兼職兼業1名）
- ・ **活動日**：毎週土曜日午前・午後（男女に分かれて活動）
- ・ **大会参加**：男子19回（公式13回、練習6回） 女子18回（公式12回、練習6回）

活動（指導）・経費実績（令和6年9月～令和7年2月）

指導実績

陸上				
指導体制（人）	活動日数（日）	総指導時間（h）	顧問の負担減（日）	顧問の負担減（h）
2	22	189.5	22	88
卓球（男）				
指導体制（人）	活動日数（日）	総指導時間（h）	顧問の負担減（日）	顧問の負担減（h）
2	43	366.5	43	172
卓球（女）				
指導体制（人）	活動日数（日）	総指導時間（h）	顧問の負担減（日）	顧問の負担減（h）
4	38	500.5	38	152

1クラブ当たり
65万円

経費実績

陸上					(円)
謝金合計	消耗品合計	保険費用	クラブ経費合計	クラブ経費年間換算	千葉県の年間運営目安との差
346,275	61,953	14,900	423,128	831,357	181,357
卓球（男）					(円)
謝金合計	消耗品合計	保険費用	クラブ経費合計	クラブ経費年間換算	千葉県の年間運営目安との差
696,466	60,109	15,700	772,275	1,528,851	878,851
卓球（女）					(円)
謝金合計	消耗品合計	保険費用	クラブ経費合計	クラブ経費年間換算	千葉県の年間運営目安との差
917,601	61,693	19,150	998,444	1,977,739	1,327,739

成果と課題

- ・指導者が充実したことで、教員の負担が減少。
- ・活動に必要となる経費が把握できた。
- ・千葉県の1クラブ当たりの運営費用目安と大きな乖離があり、運営条件等の見直しが必要となる。

活動内容の検証

検証内容

①指導者、②連絡体制、③緊急体制、④移動方法、⑤施設管理、⑥管理業務

①指導者

地域の指導者の加入によって、指導の充実（専門的な指導など）や教員の負担軽減につながるか検証。

②連絡体制

アプリを導入することで、指導者と会員間の連絡体制を構築することができるか検証。

活動内容の検証

③緊急体制

事故の初期対応から保険の適用までの一連の流れを検証。

④移動方法

学区外からの移動について検証。

⑤施設管理

学校施設を利用する際の施設管理や、クラブのみでの利用を想定した場合の必要な施設改修を検証。

⑥管理業務

コーディネーターを導入し、「会員管理、会場調整、活動用品調達、指導者管理、指導者研修会」などを市と連携して行い、適切な管理体制構築のための検証を行う。

活動内容の検証

	項目		成果	課題
①	指導者		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～4人の指導体制となったことで、技術指導が充実。（学年ごとの指導などが可能） ・ 練習試合は顧問の引率不要となり教員の負担減。 ※学校管理があるため学校には来校している場合あり。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会出場に必要な千葉県登録費用の負担方法の検討が必要。 ・ 大会交通費の定額化の検討が必要。 ・ 地域指導者の加入後も、学校管理のために教員の出勤が必要となるため、施設管理についての検討が必要。
②	連絡体制		・ アプリを使用し、スケジュール管理、連絡等を行った。	・ 一部、使いづらい機能があるため他のアプリも含めて検討。
③	緊急体制		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな事故は無し。 ・ 怪我報告はアプリによって翌日に行われた。 	・ 他の部活動から途中で転部してきた生徒がおり、地域クラブ会員に登録できていなかった事例あり。⇒会員登録方法の構築が必要。
④	移動方法		・ 学区外からの会員無し。	—
⑤	施設管理		・ 学校使用時の導線、必要な場所の確認ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上クラブは、将来的に体育館トイレを使用することで校舎利用を無しにすることもできるが、備品管理などに倉庫等が必要となる。 ・ 卓球クラブは4階を使用。施設改修が必要となるが、トイレの位置等を考慮すると、改修範囲が大きくなるため現実的でない。体育館の使用が望まれるが、部活との調整、卓球台の収納などが課題。
⑥	管理業務	コーディネーター	・ コーディネーターと連携して管理業務を行った。	—
		会員管理	・ アプリを使用して会員登録、保険登録を行った。	・ 会員の個人情報が確認できないため、保険登録は別のシステムから情報を得る必要が有る。1システムで完結されることが望まれる。
		活動用品調達	・ 必要な経費を算出（1クラブ平均 122,503円（年間換算））	・ 競技によって必要な物品が異なるため、一律の設定が可能か検討。
		指導者管理	・ アプリを活用して実績及びガイドラインに則った活動をしているか確認。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告から支払いを1システムで行う必要がある。 ・ 指導方針の一貫性を担保するため、一定期間顧問と一緒に活動することを検討。 ・ 指導者条件が現在の条件では受益者負担で賄えない可能性がある。
		指導者研修会	・ 独自科目としてアンガーマネジメント開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の兼職を想定すると、夏休み期間中の開催が望ましい。 ・ 子供への接し方などに不安を感じる指導者がいたため、学識経験者や教員（顧問）経験者による講義を検討。
		事故対応	・ 保険使用無し。	・ 途中参加の会員登録方法の構築が必要。

地域クラブ活動指導者からの意見

- ・ コーチ追加によって学年ごとの指導が可能となったり、練習試合が教員の引率なしで行えるようになるなど、指導体制がかなり充実した。
- ・ 練習場所が課題であり、教員の出勤が必要となる。部活との変化が感じづらい。
- ・ 今後、大会に部活動、地域クラブどちらで出場するのか検討が必要。
- ・ 練習場所が課題となるが、体育館で行うにしても卓球台を格納できないなどハードルが高く、他校の生徒も含めて1箇所に集まるのは難しい。
- ・ 指導者謝金も含め現在の条件で受益者負担に移行するのは難しいのではないかと。責任を伴わないボランティアの方が良いという方も出てくるかもしれない。金銭が発生すると責任が伴う。
- ・ 他の中学校でも指導者を確保することが急務であると感じている。
- ・ 大会等へ参加する交通費が意外とかかると感じた。
- ・ 部活動は色々な境遇の子どもたちが一緒になってやることも特徴の1つだが、経験としてそこに良さがある。精神面の成長機会にもなるので、そのようなことも意識して進めることが大切だと思う。
- ・ コーチ1人で10人がベストだが、頑張っても20人見ることが精一杯。引率は10人程度であれば可能だが、現実的には2人いないと厳しい。
- ・ 複数校が集まると選手選考が難しい。現在は練習態度なども考慮している
- ・ 感情がコントロールできない生徒がいた場合、経験のないコーチだと本当に難しい。
- ・ 大会は土日にあることが多く、負担が少し大きい（平日は仕事をしている）。
- ・ 元々のクラブも一緒に行っており多世代となっている。会員に大人がいることで、子供を一緒に見てくれていて、50人前後は2人で見られている。
- ・ 平日と休日の活動に少しギャップがある。時間的な制約もあるため難しい部分もあるが、平日も含めた指導体制を検討したい。
- ・ 受益者負担で賄うことを考えると、多世代で行うことも将来的には検討した方が良い。

令和 6 年度実証事業

ブカツ未来アクションについて

ブカツ未来アクション概要

一般社団法人CORD PROJECTが参画企業と連携し、部活動改革に自治体等と協力して取り組むことで、子どもたちの活動環境を守り、生涯を通して心と体を健康に、幸せな生活を営め、スポーツがライフスタイルの中に当たり前に組み込まれた社会を実現することを目的とした事業。

概要

- ・ **開催日**：令和6年10月5日、10月20日、11月24日、12月8日、12月15日
- ・ **場 所**：我孫子市民体育館、NEC我孫子事業場（ラグビーグラウンド、テニスコート）、中央学院大学
- ・ **内 容**：マルチスポーツ（陸上、ラグビー、バレーボール、テニス）、座学（マルチスポーツの意義、メンタル、コンディショニング、栄養）
- ・ **協 力**：日本電気（株）、（株）ヤマダホールディングス、（株）明治アドエージェンシー

ブカツ未来アクションでの検証内容

検証内容

①指導者、②デジタル活用、③マルチスポーツ活動

①指導者 ②デジタル活用

- ・指導者の確保を目的とした大学との連携について検証。
- ・デジタルを活用することで、指導者の負担軽減、質の向上に繋がるか検証。

③マルチスポーツ活動

- ・総合的な運動能力向上、多様な活動の展開を目的としたマルチスポーツのニーズについて検証。

ブカツ未来アクションの実績（各回）

第1回（10月5日）

会場：NEC我孫子事業場ラグビーグラウンド

参加者数：56名（子41名 保護者15名）

実施内容	担当
マルチスポーツに取り組む意義	大山 高 教授（筑波大学）
陸上	安部 孝駿（ヤマダホールディングス陸上部）
ラグビー	NECグリーンロケッツ東葛
コンディショニング	



第2回（10月20日）

会場：我孫子市民体育館

参加者数：29名（子19名 保護者10名）

実施内容	担当
スポーツメンタルコーチング	（一社）フィールド・フロー
バレーボール	NECレッドロケッツ川崎



ブカツ未来アクションの実績（各回）

第3回（11月24日）

大学連携

会場：NEC我孫子事業場ラグビーグラウンド

参加者数：15名（子10名 保護者5名）

実施内容	担当
スポーツメンタルコーチング	一般社団法人フィールド・フロー
ラグビー	NECグリーンロケッツ東葛 大学生2名



第4回（12月8日）

大学連携

会場：中央学院大学

参加者数：37名（子27名 保護者10名）

実施内容	担当
コンディショニング	日本コンディショニング協会
陸上	安部 孝駿（ヤマダホールディングス陸上部） 大学生5名



ブカツ未来アクションの実績（各回）

第1回～第5回

第5回（12月15日）

会場：NEC我孫子事業場ラグビーグラウンド

参加者数：29名（子19名 保護者10名）

実施内容	担当
栄養（食育）	長坂 聡子（管理栄養士、公認スポーツ栄養士）
ソフトテニス	羽生沢 哲郎



ブカツ未来アクションの検証結果

	項目	成果	課題
①	指導者	<ul style="list-style-type: none">・中央学院大学、川村学園女子大学の学生に指導者として参加していただき、生徒・保護者からも好意的であったことから、今後の指導者確保に繋がる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">・学生指導者の活用は、基本的に在学中のみとなることが想定されるため、メインの指導者としては難しい可能性がある。
②	デジタル活用	<ul style="list-style-type: none">・ NECの「MethodBASE」を使用し、学生が事前にアスリートが作成したメニューを学習。・ 指導負担の軽減、質の向上に繋がることが期待できる。	<ul style="list-style-type: none">・ 提供されるメニューによる指導が強制的にならないように注意が必要。
③	マルチスポーツ活動	<ul style="list-style-type: none">・ 他種目を経験するニーズが一定程度あることが確認できた。・ 栄養やメンタル分野など、保護者を中心に興味関心が高いことが確認できた。	<ul style="list-style-type: none">・ マルチスポーツの意義、概念を保護者に浸透させる啓蒙活動も合わせて必要。

令和 6 年度実証事業

令和 6 年度の取り組みを終えて

令和6年度の取り組みを終えて

実証事業を通して・・・

- ・地域指導者の導入は、質の向上や教員の負担軽減に繋がることが期待できる結果となった。
- ・競技や活動によっては、施設使用に大きな課題がある。
- ・指導者確保や施設使用を考えると、大学との連携も重要になる。
- ・指導者の質向上には、研修やデジタル活用を行うことが有効。
- ・謝金や交通費、大会への参加規程など、指導者を委嘱する際の条件設定の精査が必要。

令和7年度以降に向けて・・・

- ・チーム競技を移行することで、令和6年度に行うことができなかった実施場所までの移動について検証する。
- ・指導者条件の精査を行う。
- ・具体的な管理・運営方法を検討し確立する。
- ・大学、企業連携について検討を行う。